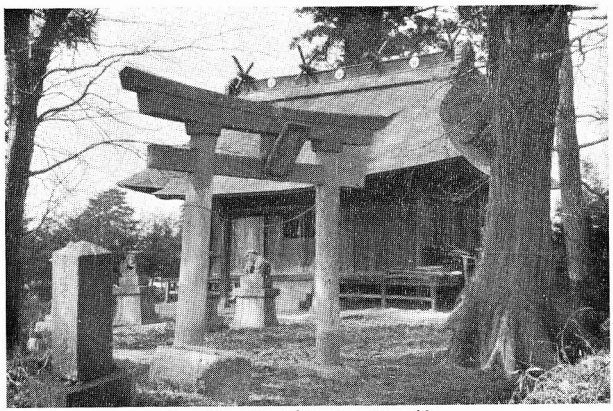

小出の富士神社

をさけて小出のしかも村西に墓地もろとも移ったので、現在はむしろ小出が親村のようにさえみえる。実はこのような河道の変遷と河原の開墾があって、村も移り、現在の位置に住みついたという、いきさつがある。

現在の富士神社はもとは富士権現で、やはり修験が祭っていたと思われるが、当時の藩の政策もあったからではあるが、富士権現自身が水災を避けて現位置に移ったように、付近からの寄せ宮も随分と多い。貞享二年の書上げによると相殿になっているもので、稲荷三社、伊勢、山王御嶽、熊野は蟹川より、磐梯明神は礫宮村より、鬼渡神社は川崎より引宮したとある。現在は一部が原位置に小祠を建てて戻っているのもあるが、境内にはなお、寄せ宮が多くたち並んでいる。

菩提所の荒伝山宝光院も、明応四年（一四九五）宝泉の開基とあり、決して新しいものではないが、下荒井村蓮華寺の末寺で、蓮華寺が下荒井に移ってから後に現在の位置に移されたものかと思われる。

記録には本尊が地蔵尊のようにみえるが、現在はその地蔵尊二体はわきに寄って、中央には御丈七五センチの大日如来が安置してある。不動尊、十一面観音、赤鬼、青鬼の供養像、聖徳太子、聖観音など、村の移動もあり家の興亡も激しかったためか、廃家の残したらしい仏体が目立っている。この中でも聖観音は御丈五四センチの秘仏、赤鬼、青鬼の来由はわからないが、丈は三二センチに二八センチあって異様に仏壇にかざられてい